

【短報】外来種ムネアカオオクロテントウを東京都および神奈川県で発見

筆者らは外来テントウムシ *Synona consanguinea* Poorani, Ślipiński & Booth, 2008 を採集したので報告する。本種はこれまで中国、台湾、ミャンマー、タイ、ベトナムに分布することが知られており (Poorani *et al.*, 2008), 国内では未記録であったが、最近になって大阪府での発生が報告された (齋藤ほか, 2016)。本稿ではこの報告に従い、本種の和名ムネアカオオクロテントウを用いる。

1♂, 東京都大田区鶴の木, 10. X. 2014, 木村欣二採集・松原豊保管。

1ex. 目撃, 神奈川県横浜市港北区日吉 (慶応大学キャンパス), 2. IX. 2015, 青井光太郎撮影 (図1)



図1. 横浜市産ムネアカオオクロテントウ (2015年9月2日撮影)。

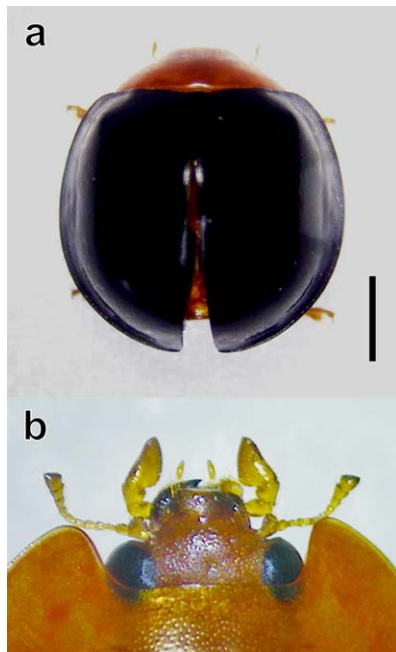


図2. 横浜市産ムネアカオオクロテントウ♀の標本写真。a: 全体背面 (スケール2.0 mm), b: 頭部背面。

1♀, 同所, 20. X. 2015, 青井光太郎採集・保管 (図2)
2014年の個体は、採集者の木村氏によれば住宅街のコンクリート塀に止まっていたのを発見したとのことである。本属には斑紋の似た種が含まれるため、解剖して雄交尾器の形状を確認した。

2015年には、筆者の一人、青井が横浜市港北区の慶應義塾大学日吉キャンパスのビオトープ池を観察中に、ヨシの葉上で本種を発見し撮影した (図1)。また、図2の個体は同キャンパス内のカナムグラの葉上で採集した。なお、慶応大学のキャンパスでは、動植物の採集が禁止されているため、大学に許可を得て採集を行なった。この周辺のカナムグラ上では、ナミテントウ、ナナホシテントウ、ダンダラテントウ、ヒメカメノコテントウ等のテントウムシの生息が確認されている。

インドでは本属のテントウムシは、豆類の害虫であるマルカメムシ類 (*Coptosoma* spp.) の天敵として知られている (Poorani *et al.*, 2008)。齋藤ほか (2016) も、クズのピーティングによって、マルカメムシとともに本種を採集している。今回の発見地の周囲にはマルカメムシも多く見られ、それらが捕食の対象になっているかもしれない。

今回、本種は同所で複数個体発見されていることから、すでにこの地域に定着している可能性がある。また、ほぼ同時期に大阪で確認されていることから、すでに本州の広い範囲に点在して分布しているのかもしれない。原産地から日本への侵入には、複数の経路があることも考えられる。今後の分布状況の動向に注目したい。

末筆ながら、本種に関する情報をご教示いただき、本稿の執筆に際してご協力いただいた本間淳博士 (琉球産経)、鈴木紀之博士 (立正大学)、貴重な標本を御恵与いただいた木村欣二氏 (東京都大田区) に深謝申し上げる。

引用文献

- Poorani, J., A. Ślipiński & R. G. Booth, 2008. A revision of the genus *Synona* Pope, 1989 (Coleoptera: Coccinellidae: Coccinellini). *Annales Zoologici*, 58(3): 579–594.
齋藤琢巳・春澤圭太郎・初宿成彦, 2016. 大阪府における *Synona* 属のテントウムシの記録. 月刊むし, (539): 46–47.

(中西康介 464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院環境学研究所)
(松原 豊 245-0051 横浜市戸塚区名瀬町 765-2)
(青井光太郎・持田浩治 223-8521 横浜市港北区
日吉 4-1-1 慶応大学生物学教室)
(日高直哉 900-0001 那覇市港町 2-11-1
那覇植物防疫事務所)